

一般社団法人大学コンソーシアム熊本第51回理事会議事録

1 開催日時 令和8年2月18日（水）16時30分～17時43分

2 開催場所 ホテルメルパルク KUMAMOTO

3 出席者

代表理事（会長）	竹 屋 元 裕	熊本保健科学大学長
代表理事（副会長）	堤 裕 昭	熊本県立大学長
代表理事（副会長）	小 野 長 門	崇城大学長
理事	小 川 久 雄	熊本大学長
理事	林 裕	熊本学園大学長
理事	古 閑 陽 一	熊本保健科学大学特命副学長
監事	松 本 充 右	九州ルーテル学院大学長
監事	木 之 内 均	東海大学九州キャンパス長

4 開 会

1) 開会

事務局から、本日の理事会には、現在の理事6名うち6名の出席及び監事2名の出席により、定款第32条に定める定足数（理事現在数の過半数）を満たし理事会が成立したことを宣言した。

2) 議長挨拶

議長から、挨拶と本日の理事会の議題の説明があった。

3) 議事録の確認及び議事録署名人の指名について

議長から、第49回、第50回理事会議事録の確認及び報告の後、今回の議事録署名については、定款第33条第2項及び理事会運営規則第12条第1項の定めにより、議長である代表理事（会長）と松本監事、木之内監事の3名で行うことの説明があった。

5 理事会議事

第1号議案 令和8年度の運営体制について

議長から、定款24条の定めにより令和7年度に改選された現役員の任期は令和9年度の社員総会までである旨の説明の後、資料2-1に基づき、高等教育コンソーシアム熊本（平成18設置）以降の歴代の役員校の紹介があった。

また、事務局から資料2-2に基づき、事務局体制の説明があり、事務局長、次長、主事2名については、現在出向の継続をお願いしている段階であり、内諾を得ている状況である。もう1名の主事については、コンソのインターンシップの業務を担当しており、必要不可欠な人員でもあることから継続して直接雇用をお願いしたい旨説明があり、主事1名を直接雇用することを異議なく承認された。また、県市補助金で雇用のコーディネーター1名が現在は育児休暇のため派遣契約を行っている旨報告があった。

なお、議長からコンソ事務局への出向が可能な機関については事務局まで連絡いただくよう付言があった。

第2号議案 大学コンソーシアム熊本令和7年度事業報告会の開催について

事務局から、資料3に基づき、大学コンソーシアム熊本令和7年度事業報告会の開催の内容については今年度の各部会の活動報告が中心となること、オンラインでの開催を予定していること等の説明があった。また、開催日は3月31日に調整し、本日は事後承認の形となるが、承認願いたいとの発言があり、異議なく承認された。

また、議長から、開催内容等の詳細については議長に一任頂きたいとの発言があり異議なく承認された。

第3号議案 その他

なし

6 理事会報告

第1号報告 正会員（中九州短期大学）の退会について

事務局から、資料4-1、4-2に基づき、中九州短期大学から退会届が提出されたことについて報告を行った。

第2号報告 令和7年度各部会の事業実施状況について

事務局から、資料5に基づき、令和7年度各部会の事業実施状況について報告を行った。

第3号報告 令和7年度予算の執行状況について

事務局から、資料6に基づき、令和7年度予算執行状況について、精査ができていないという前提で以下の説明があった。

- 1) 「管理費」は、予算に対し170万円程度余る見込み。法定福利費などで使用減となったため。
- 2) 「学生教育部会」は、部会全体としては26万円程度余る見込み。概ね予算が執行されている。
- 3) 「国際交流部会」は、予算に対し34万円程度余る見込み。人件費などが余る見込み。
- 4) 「地域創造部会」は、部会全体としては47万円程度余る見込み。「男女共同参画推進事業」が諸謝金・交通費が抑えられたこと。「産学官連携推進事業」は勉強会に重きを置いたことで予算が抑えられた。

第4号報告 その他

なし

7 意見交換

陪席の木村熊本県知事から、資料7に基づき、今後の県と大学の連携について、産業集積の現状、くまもとサイエンスパーク、「食のみやこ熊本県」の創造、国際化の進展（県内の在留外国人の状況、海外からの来訪者の状況）、少子化と人口減少、熊本県の様々な課題、大学を取り巻く課題、県と大学の抱える課題への対応、連携の実例について説明があった。

（小川理事）

地域構想推進プラットフォームに関しては各県の競争になると思うので、県がリーダーシップを取ってやっていただきたい。

（小野理事）

熊本の企業の魅力を学生に周知させることが課題となっている、職業と教育のミスマッチをなくしていくことが必要であれば、小学校の頃から人材を育てていくパイロットモデルのサイエンスパーク構想を熊本が先陣をきって例を示していき、小中高大連携の構築をしてほしい。子どもたちが興味を持って育てていくサイエンスパーク構想になればうまくいくと思う。また、薬剤師の偏在（離島の薬剤師不足）などの問題で、給付型の奨学金の支給によりピンポイントで離島などに残ってもらうとよい。

（木之内監事）

「食のみやこ熊本県」への貢献として、スマート農業化の発展のため、コンソ加盟大学等からも、本学のフィールドを実証の場として活用するなど、プラットフォームへ参加していただきたい。「食のみやこ熊本県」へ協力できることがあれば声をかけてほしい。

以上で議事を終了し、議長は閉会を宣言した。

この議事録が正確であることを証するため、代表理事及び出席監事は、署名押印する。

令和8年2月18日

一般社団法人大学コンソーシアム熊本第51回理事会

代表理事（会長） 竹 屋 元 裕

監 事 松 本 充 右

監 事 木 之 内 均